

令和6年度 第9回

宍粟市教育委員会

会 議 録

(要点筆記)

日時 令和6年12月16日 午前9時30分から

場所 宍粟市役所 4階 402・403会議室

第9回（定例）宍粟市教育委員会会議録

● 開会・閉会の年月日時及び場所

令和6年12月16日（月） 午前9時30分～10時30分

兵庫県宍粟市山崎町中広瀬133番地6 宍粟市役所4階402・403会議室

● 会議に出席した者の職氏名

教育委員

中田直人 教育長

片山繁樹 委員

飯田さおり 委員

金本一二 委員

中川まゆみ 委員

事務局

大谷奈雅子 教育部長

鳥羽千晴 教育総務課長

小池信仁 こども未来課長

大田貴久 施設整備課長

中尾善弘 市民生活部次長

大砂正則 教育部次長

中田 吏 学校教育課長

清水将道 社会教育文化財課長

大北真彰 山崎学校給食センター所長

岩本浩二 教育総務課副課長

1 開会

中田教育長が開会した。

2 会議の成立宣言

出席者数5名となり、中田教育長が会議の成立を宣言した。

3 会議録署名委員の指名

署名委員は、中田教育長の指名により、金本委員に決定した。

4 前回会議録の承認

令和6年度第8回（定例）宍粟市教育委員会会議録の承認に関する件
前回の会議録について、鳥羽教育総務課長が説明し、承認された。

5 教育長報告

（1） 学校規模適正化推進状況について

12月10日に第10回目の地区協議会が開催され、山崎南小学校の校歌と曲、上履き（体育館シューズ）が決定されました。引き続き協議が行われ、閉校並びに開校に向けた調整が進んでいることを報告します。

(2) 第3回しそ教育創造フォーラムについて

12月14日に総合教育センターにおいて開催されました。

地域と学校の連携・協働による学校づくり、地域づくりについて、率直な意見交流の場となりました。今後のコミュニティ・スクールの推進に活かしてまいります。

(3) 第2回しそ幼児教育支援委員会について

12月13日に市役所において、第2回しそ幼児教育支援委員会を開催しました。

今回の支援委員会では、各園において幼児理解を深めるために様々なツールを活用し、保育改善に取り組んでいることについて情報共有を行い、理解を深めました。

今後の宍粟市の幼児教育保育の在り方について、公立民間の同じ土壌で、充実に向けて、国の方針や指針等も参考にしながら、委員会の提案や指摘事項等を事務局としてしっかり受け止めていきたいと思っています。

(4) 第3次宍粟市子ども読書活動推進計画について

11月8日に第3回目の策定委員会を開催し、素案が策定されました。

後ほど担当よりご報告をさせていただきますので、ご意見がありましたらお願いします。

6 議事

第9号議案 宍粟市障害の表記を改めるに伴う関係教育委員会規則の整理に関する規則案について

【1～5P】により、宍粟市障害の表記を改めるに伴う関係教育委員会規則の整理に関する規則案について、鳥羽教育総務課長が説明した。

審議の結果、第9号議案は、提案どおり可決した。

7 協議報告事項

(1) 教職員の勤務時間実態調査結果報告書について

資料1【6P】により、中田学校教育課長が説明した。

(2) 令和7年度版「宍粟の教育」編集方針について

資料2【7～8P】により、中田学校教育課長が説明した。

(3) 宍粟市における小中一貫教育に係る取組と今後の予定について

資料3【9P】により、中田学校教育課長が説明した。

委員の主な意見及び事務局の説明

(片山委員)

勤務時間実態調査結果報告について、まだ超過勤務があると感じるものの、宍粟市全体で1か月あたり平均37時間33分ということで、しそこのども生き生きプランの後期基本計画の目標の平均35時間以内にもう少しのところまできている。メールシステムの導入など超過勤務を

減らす努力をしていただいていることをありがたく思う。

今後の見込みとして、もっと業務改善によって超過勤務時間を減らせるのか、あるいは、このあたりが限界なのか。

この問題は、学校の努力だけではなかなか難しく、国や県単位の問題でもあると思う。

今回、教頭先生、特に中学校の教頭先生が増えているので、誰かが無理をして学校運営が回っていることもあるかと思うので、今後の状況をお聞きしたい。

(中田学校教育課長)

県教育委員会からも様々な改善策、改善推進方策、具体的な案などが示されており、できる限り取り入れていくことと、先生方が自分の働き方を絶えず見直しながらという意識を忘れないこと、また教育委員会として、メールシステムや連絡システム等も含めて改善策で実施できることは継続していくこととしている。大きな改善策はないが、今の取組を継続して進めていきたいと考えている。

(金本委員)

宍粟の教育に関して、教育委員に就任して以来、特徴的なことは何かを私なりに考えると、宍粟の自然の中で育つ子どもたちが、自然を理解していくという観点も必要だと思う。

自然の働きを学び理解することで、その働きがわかれば感謝をするといったその心を育てていくことも宍粟の教育としてあってもよいのではないかと思う。

以前、中学生のあいさつ標語に「ありがとう。心をつなぐ合い言葉」があったが、「ありがとう」の言葉が飛び交えば、心がつながっていくと思う。

そのような雰囲気の中だと、学校に行きたくないなど嫌な気持ちになることが減るのではないかと思うので、自然の恵みを考察し、感謝の心を育てていくような教育について、宍粟の教育を考える中で提案していただきたい。

(中田学校教育課長)

自然の恵みについて知り学び学習に取り組むことで、ふるさと宍粟に感謝の気持ちが生まれるような取組が充実していけばと教育委員会としても考えている。

小学校3・4年生から始まる環境体験学習や自然学校、またこの数年で地域の方々にお世話になることが可能になった小中一貫教育を推進する中で、さまざまなふるさと学習に関わる環境が整備できつつあり、米づくりや森林セラピー、間伐の体験などいろんな体験事業ができるようになっているので、より充実できればと考えている。

(片山委員)

部活動の地域移行について、来年度に向けてできるところから移行していく計画であるが、宍粟ではなかなか地域移行が困難な部分もあると思う。しかし、進捗状況により、明記できる状況であれば、令和6年度『宍粟の教育』の4ページにある「地域総がかりで新しい学校を創造する」のところに、部活動の地域移行を今後進めていくと加えてよいと思う。

(教育長)

編集方針について、宍粟の教育の独自性が見える形で表記、編集できればと思う。

令和7年度の重点項目として、市民の皆様を受け止められるものなので、継続事項であっても強調することで宍粟の教育ではこんなことを大事にしているということがわかりやすいと思う。また、部活動の地域移行やコミュニティスクールなど、市民の皆様の理解や参画を得なければならない事業については、「今、宍粟市では〇〇〇を学校教育として重視し進めていることから、市民・保護者の方々にも〇〇〇にご理解とご協力をお願いしたい。」というように、分かりやすく記述してよいと思うので検討願う。

加えて、編集方針の確認事項(3)に国や県との整合性とあるが、県の指導の重点の素案には、「社会的自立」や「学校教育における多様性と包摂性の尊重」などこれまであまり見なかった用語が項目立てであることから、宍粟の教育でも使った方が良い用語があれば取り入れることで、県との整合を図っていただきたい。

(4) 令和7年度幼稚園・保育所・こども園・あずかり保育・学童保育申込状況について

資料4【12～13P】により、小池こども未来課長が説明した。

(5) 第3次宍粟市子ども読書活動推進計画素案について

資料5【14～51P】により、清水社会教育文化財課長が説明した。

(6) その他

山崎南中学校区学校規模適正化進捗状況について

当日資料により、鳥羽教育総務課長が説明した。

委員の主な意見及び事務局の説明

(中川委員)

宍粟市子ども読書活動推進計画の素案について、最後に用語の説明があるのが、わかりやすくていいと思う。

この計画の冊子は、全戸配布するのか。

(清水社会教育文化財課長)

全戸配布の予定はないが、市ホームページで公表する。

(中川委員)

先日の幼児教育支援委員会に参加した際、講師から、妊娠中から幼児教育の重要性を伝えてほしいとの話があった。ブックスタートの取組がすでにあるが、その時に、絵本の重要性や読み聞かせの大切さをもう少し強調できるような取組ができればと感じた。今後の事業の中で、うまく取り入れてもらえればと思う。

(清水社会教育文化財課長)

ブックスタートでは、セカンドブック事業についても少し掲載している。発達段階において、ブックスタートの次の段階として3歳児からのところをもう少し計画には盛り込んでいこうと検討している。

8 次回会議の招集について

令和7年1月17日（金）午後3時から、宍粟市役所402・403会議室において、令和6年度第10回宍粟市教育委員会を開催することとした。

9 閉会

片山委員が閉会した。

会議録署名委員

教 育 長

委 員
